

福島県立会津短大 佐川 澄子

1. 従来和服地の縫製については、きれいに早く縫えるということが問題の中心であって、その縫製途上の方法、手段についてはあまり問題とされていなかった。

そこで今回日常着としての単衣地の中から数種をえらんで縫製を行ない、その速度、正確度について検討し、布地によって異なる点を明らかにしようとした。また同時に縫糸の種類により、縫製の難易を明らかにして布地との関係を把握しようとした。次に各種の布地と縫糸を用いて縫合わせたものを試験機にかけて強度を測定し、その結果について検討したので報告する。

2. 試料とする布地の硬軟度を垂下法によって測定し、Skinkle の G の値を算出する。縫糸は番手、ヨリ数、重量・強伸度、価格等を調査する。次に生活年齢一定の女子5名を被検者として、上記の布地と縫糸を交互に使用して1m間の縫製を行ない、その所要時間を測定する。同時に縫目中央30cm間の針目の直曲度、正、不正の度合を%によって測定する。更に径地に13×4に裁断したものを2枚縫い合わせ、織物引張機によって切断強度を測定する。

3. 縫製の所要時間は、布地の厚さによって左右され、縫糸はその太さと共にヨリ数によっても問題となることが明らかになった。また縫目の強度については分散分析の結果、布の種別間に多くの有意差がみとめられた。